

YMIワールド2025-26 第5号



# YMI WORLD

「強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う」

ワイズメンズクラブ国際協会

2025年11月



夢の祭典  
2026年9月10～13日

To dream  
impossible dreams  
at the world's most  
futuristic city

世界で最も未来的な都市で、  
不可能な夢を見る

2026年国際大会 - 登録開始は2025年11月15日

# 目次

<b>国際会長メッセージ</b>	3
エドワード・オン 国際会長	
<b>国際本部ニュース</b>	6
ジョース・ヴァルギース 国際書記長	
<b>IC26情報</b>	8
IC 26ホストコミッティー	
<b>BF</b>	11
アーリング・ビルバック BF国際事業主任	
<b>BFアンバサダー2025/26アップデート</b>	13
トング・フォントウドウシリクル BF国際トラベルコーディネーター	
<b>iGoプログラム</b>	14
リタ・ヘッティアラチチ - iGo & STEP 国際事業主任	
<b>インドでiGoインターン</b>	15
メアリー・シミュ iGoインターン	
<b>未来のための価値あるSTEPプログラム</b>	16
リタ・ヘティアラッチ iGo & STEP 国際事業主任	
<b>アフリカ地域ニュース</b>	18
ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース編集者	
<b>アジア太平洋地域ニュース</b>	20
利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者	
<b>ヨーロッパ地域ニュース</b>	21
ビルジット・ジェイコブセン ヨーロッパ地域ニュース編集者	
<b>インド地域ニュース</b>	23
ジョセフ・ヴァルギース インド地域ニュース編集者	
<b>韓国地域ニュース</b>	26
チョン・ギョンジュ 韓国地域ニュース編集者	
<b>米国地域ニュース</b>	29
メラニー・カアイフエ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者	
<b>TOF USA - シェアハーベストファーム&amp;タイニーホームズ</b>	31
<b>国連デー - 11月</b>	33
ロイズ・マラセリー 国連プロジェクト委員会メンバー	
<b>キリスト教的強調：人の子についてのたとえ話</b>	34
ヴィリー・モルゴー キリスト教強調国際事業主任	



## BF&ウェルビーイングの育成

エドワード・K・W・オン国際会長、YMIワールド編集長

11月は、BF(Building Fellowship)、iGo(Internship 4 Global Outreach)、そしてSTEP(Short Term Exchange Programme)の強調月間です。今号のYMIワールドではこれら3つのプログラムについて取りあげています。また、ナイロビ・メトロYサービスクラブ所属のワイズユースであるメリー・シミュ直前クラブ会長がiGoプログラムへの参加について語っています。YMCAの皆さんも含め、YMIファミリーの多くの若者に、これらの刺激的なプログラムに参加し、異文化理解と他国への感謝の気持ちを育んでいただきたいと思います。

今月は、11月16日の国際寛容デー、11月20日の世界子どもの日、11月25日の女性に対する暴力撤廃の国際デーなど、いくつかの興味深い国連記念日にも注目が集まります。

いくつかの地域から、それぞれの奉仕活動とその重要な記念事業に関する報告がありました。世界中で、YMIのクラブと区は、困難な状況にある地域社会を支援し、生活を向上させ続けています。ストーリーや写真を共有して、これらの取り組みを継続的に推進できるよう支援をお願いしたいと思います。私たちの活動のインパクトをぜひ発信しましょう。

これまでの成果を祝い、グローバルなブランドとしてのアイデンティティの構築に取り組む中で、今年の行動計画「フォーカス2.4」を改めて認識することも重要です。この計画の主要目標は、クラブ内および地域社会全体において、高齢者のメンタルヘルスをワイズメンズクラブ国際協会の代表的なプログラムとして位置付けることです。シニア会員および元会員の貴重な貢献に敬意を表すこの取り組みは、クラブおよび区に対し、老後における継続的な活動への参加、尊厳、そして活力を促進するプログラムを企画することを奨励しています。肉体的な活動、精神的な刺激、そして有意義な社会とのつながりを育むことで、シニアの方々がYMIを特徴づける親睦と奉仕活動に積極的に参加し続けることができるようになるからです。

以下のアイデアは、高齢者向けの活動を導入または強化したいクラブにとって実践的なガイダンスとなります。活動は、身体健康、精神の明晰さ、社会との交流、そして全体的な健康の向上を目指すべきです。重要な点は、楽しく、個人の能力に適していて、目的意識を持てる活動を見つけることにあります。

## I. 身体の健康と運動能力

衝撃の少ない運動は、筋力、バランス、柔軟性を維持するのに役立ちます。

1. ウォーキング：最もシンプルで手軽に始められる運動です。一人でも、友人とでも、「ウォーキングクラブ」の一員としてでも楽しむことができます。
2. チェアヨガまたは太極拳: 怪我のリスクが最小限で、バランス、柔軟性、マインドフルネスに最適です。
3. 水中エアロビクス: 関節に優しく、抵抗力を高めて筋力を鍛えます。
4. 軽い筋力トレーニング: 抵抗バンドまたは軽いウェイトを使用して筋肉の緊張を維持します。
5. ガーデニング: 軽い身体活動、自然とのつながり、達成感を促進します。
6. ダンス: 社交ダンス、フォークダンス、ラインダンスなど、ダンスは心拍数を上げ、社交するための楽しい方法です。

## II. 精神的刺激と創造性

心を活発に保つことは、認知的健康と自信をサポートします。

1. パズルとゲーム: ジグソーパズル、クロスワードパズル、数独、ワードサーチ
2. カードゲームとボードゲーム: ブリッジ、ラミー、チェス、スクラブル、または Sequence などの新しいゲーム
3. 読書と読書クラブ: 想像力を刺激し、会話を活発化させます。
4. 何か新しいことを学ぶ: 新しい言語 (Duolingo などのアプリケーション経由)、楽器、またはテクノロジー スキル (タブレット、ビデオ通話)
5. 創造芸術:
  - 絵画、描画、または塗り絵: 取り組みやすく、心を落ち着かせます。
  - 編み物、かぎ針編み、刺繍: 器用さを向上させ、手作りのギフトを作ります。
  - 陶芸または粘土細工: 触覚的で満足感を与える創造的な表現方法です。
6. 書くこと: 日記をつけたり、詩を作ったり、家族のために思い出を記録したりします。

## III. 社会的つながりとコミュニティ

孤独や孤立と闘うことは、感情的な健康を維持するために不可欠です。

1. シニアセンターの活動: 多くのコミュニティでは、クラス、旅行、社交イベントなどを提供しており、YMCA は、優れた会場となります。
2. ボランティア活動: 子供たちに本を読み聞かせたり、指導したり、チャリティーショップで手伝ったりするなど、目的意識と地域社会への関与を提供します。
3. 定期的な社交グループ: 毎週のコーヒーモーニング、朝食クラブ、映画グループなど
4. 世代間活動: 学校、家族イベント、地域のプロジェクトを通じて高齢者と若者を連携させます。
5. 宗教またはスピリチュアルなグループ: 礼拝、学習グループ、または、合唱団への参加は帰属意識と共通の価値観を育みます。

## IV. 余暇と楽しみ

リラクゼーションと喜びは、バランスと幸福を維持する上で中心的な役割を果たします。

1. 音楽を聴く: お気に入りの時代のプレイリストを作成したり、新しいジャンルを探したりします。
2. バードウォッチングと自然観察: 自宅や地元の公園で楽しめます。
3. 料理や菓子作り: 色々なレシピを試したり、伝統的な料理を他の人と共有したりします。
4. 系図と家族の歴史: 祖先を調査したり、古い写真を整理したりします。
5. 外出と遠足: 博物館、公園、庭園、ショップ、劇場など、多くの施設でシニア割引や静かな見学時間を設けています。

## V. 異なる能力に合わせた活動の適応

高齢者は、それぞれがユニークであり、活動は、個人のニーズと能力を反映する必要があります。

- 運動能力の制限: 椅子を使ったエクササイズ、オーディオブック、バーチャル美術館ツアー、定期的な電話またはビデオチャット
- 認知課題 (認知症など): 簡単な分類作業、馴染みのある音楽、感覚活動、写真アルバムを見ること
- 視覚障害: 大きな活字の資料、オーディオブック、触覚を使った趣味、アクセス可能なパズル

## 成功のためのヒント

- 興味に焦点を当てる: 生涯にわたる情熱を基に構築します。たとえば、元シェフは、料理のデモンストレーションを楽しむかもしれませんし、庭師は、バルコニーのハーブガーデンが大好きかもしれません。
- 穏やかに始めましょう: プレッシャーをかけずに参加を促します。目標は、パフォーマンスではなく、楽しみと関与です。
- 安全を優先する: スペースが十分に明るく、危険がないことを確認します。
- 社会的要素を強調する: 仲間との絆や経験の共有は、幸福感を高める重要な動機であり、源です。

- **人生のあらゆる年齢や段階において、喜びを引き出し、つながりを育み、新たな目的意識を与えてくれる活動こそが、最高の活動です。楽しみながら、仲間意識を育みましょう。**

# 国際本部ニュース

国際書記長

ジョース・ヴァルギース



季節が変わりました！ジュネーブでは黄金色の葉が空気を漂い、変化のささやきを運んでいます。そよ風一つ一つが、手放すことが強くあり続けることなのだ、優しく歌を歌っているようです。

11月は、BFプログラムに焦点を絞る月です。すべてのクラブ、部、そして区の皆さんに、BF代表の受け入れをご検討いただければ幸いです。他のクラブや国から来たメンバーと直接会って、自分の家や活動を直接見ていただくのは、素晴らしいことではないでしょうか？受け入れをご希望の場合は、できるだけ早く区理事にご相談ください。

BF代表受け入れの申請は、12月1日まで受け付けています。各エリアで年間少なくとも1回はBFの機会を提供することが強く望まれます。BF訪問は、最短1週間でも可能ですが、3週間が最適です。BFプログラムの成功は、皆さんの参画にかかっています。BF代表をホストすることで、グッドスタンディングクラブは、翌年にBF代表を派遣できるようになりますので、お忘れなく。BF代表派遣の申請は、1月3日から開始され、5月1日まで受け付けます。

国際議会で今年の選挙で次期国際会長および次期国際会計候補者に選ばれた皆さんに、心からお祝い申し上げます。次期国際会長（2026/27年度）には、ジャマイカ出身の直前地域会長のサンドラ・ハミルトン、ザンビア出身の地域会長のベズウェル・マシュー・メンプルワ、そしてインド出身の直前地域会長のV・S・ラドハクリシュナンが候補者として名を連ねています。3名とも国際議会での経験を積んでおり、国際レベルの様々なワーキンググループや委員会にも参加しているため、次期国際会長の職務に伴う責任を十分に担うことができるでしょう。

デンマーク出身の現国際会計スヴェンド・エリック・ニールセンとインド出身のピルソン・ルイスが、次期国際会計候補に指名されました。各クラブの皆さんには、投票の際に十分な情報に基づいた判断をしていただくために、各候補者についてご確認いただくようお願いいたします。投票資格をお持ちの方は、ぜひその権利を行使してください。あなたの声は重要です！

11月には、ドバイで開催される2026年国際大会の公式登録受付を開始します。国際大会ホストコミティーは、国際大会推進委員会と協力し、イベントのロジスティクスとプログラムに磨きをかけることに尽力するとともに、認知度向上と参加促進のための方法を検討しています。詳細は近日中にお知らせいたします。

戦略2032の枠組みの中で、フォーカス2.4を通じて私たちの運動を構築し、強化するための作業が進行中です。過去2か月間に、さまざまなタスクフォース、委員会、地域事業主任による会議が開催され、運動のあらゆるレベルで新たなエネルギーが注入されました。

最後に、100日会員増強キャンペーンについてお知らせいたします。このキャンペーンは、12月9日まで続きます。クラブ会員の新規勧誘にご協力いただき、新クラブのスポンサーもご検討ください。来月、皆さんの成功をお祝いできることを楽しみにしています。

募集は  
まもなく終了  
します!

国際ユース代表  
2026/28  
選挙

応募受付期間:  
2025年10月1日から  
11月15日

詳細についてはここをクリックしてください



# 夢の祭典 2026年9月10～13日

## 登録開始は2025年11月15日

### 日程と会場

第75回国際大会（IC 2026）は、インド地域・中東区のアラブホストにより、2026年9月10日から13日まで、ドバイのミレニアムプラザダウンタウンホテルで開催されます。世界で最も活気のある都市の一つであるドバイで開催されるこの記念すべきイベントには、約500名の参加者が見込まれています。また、9月9日夜には、名門エミレーツ・ゴルフクラブで開催されるRBMゴルフトーナメントにもご参加いただけます。

### テーマと焦点

「夢の祭典」の旗印の下、IC 2026は、世界で最も未来的な都市で、会員一の皆さんに不可能な夢を描いていただく機会を提供します。このイベントは、私たちの運動を象徴する祝祭、友情、そして楽しさの精神を体現し、インスピレーション、友情、そして共通の目的に溢れた3泊4日間を提供します。

### プログラムのハイライト

大会では、魅力的なセッション、基調講演、活気あふれる文化イベントなど、例年どおりの充実した内容が予定されています。2024年にチェンマイで開催された国際大会で初めて導入された人気のフェスティバルゲームズも、プログラムのハイライトとして再び開催されます。また、参加者には、ドバイならではの体験として、3つのエクスカージョンをご用意しています。

1

オールドドバイ & アルシーフクルーズ  
街の伝統を垣間見た後、歴史ある小川沿いでディナーを楽しみます。



2

ニュードバイ & マリーナクルーズ  
近代的なスカイラインを眺める夜のツアー。最後はマリーナでのディナークルーズです。



3

砂漠サファリ & ディナー  
砂丘ドライブ、文化的なエンターテインメント、星空の下でのディナーを組み合わせた、ドバイの伝統的なアドベンチャーです。



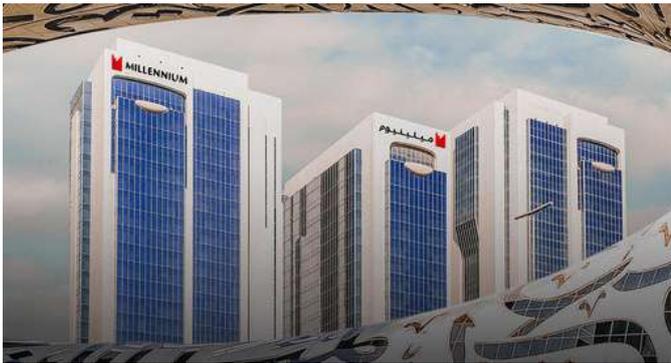
オールドドバイ & アルシーフクルーズは参加費に含まれています。少額の追加料金で、ニュードバイ & マリーナクルーズまたは砂漠サファリ & ディナーへのアップグレードも可能です。

## 宿泊と食事

コンベンションの公式ホテルである5つ星のミレニアムプラザ ダウンタウンホテルでは、朝食付きで1泊97米ドルの特別料金で、ツインシェアルームを限定数確保しています。

客室は、最大2名までご宿泊いただけます。特別料金は、数に限りがございますので、お早めにお申し込みください。ホテルのご予約とお支払いは、お申し込み手続き中に直接行うことができます。

大会登録料には、すべての昼食と夕食が含まれています。大会ホテルの宿泊料金には朝食も含まれています。



## 旅行とビザ情報

旅行者は、最も近くて便利な選択肢であるドバイ国際空港 (DXB) に到着することをお勧めします。ただし、シャルジャ (SHJ) 空港とアブダビ (AUH) 空港も利用できます。これらの空港からは、ドバイ中心部までそれぞれ約30分と90分です。

会場へはドバイ国際空港からタクシーまたは地下鉄で簡単にアクセスできます。

参加者はご自身でビザの必要事項をご確認・ご準備いただく必要があります。ビザを必要とされる方には、ご要望に応じて招待状をお送りいたします。パスポートの有効期限が入国予定日から6ヶ月以上残っていることをご確認ください。ビザ情報およびビザの取得資格については、[エミレーツ航空のウェブサイト](https://www.emirates.com)でご確認いただけます。

## 登録開始 - 2025年11月15日

世界中から集まった仲間たちと、友情と夢を分かち合う忘れられない祝賀会にご参加ください。ドバイの中心部で開催されるこの記念すべきイベントへの参加を確実にするために、お早めにご登録ください。お得な料金でご参加いただけます。

### 登録料:

- スーパーアーリーバード (2025年11月15日~2026年1月31日) 475米ドル
- アーリーバード (2026年2月1日~2026年4月30日) 495米ドル
- 通常 (2026年5月1日~2026年7月31日) 600米ドル
- 16歳以下の連れのお子様 300米ドル

登録は、2025年11月15日から[www.ysmen.org/ic2026](http://www.ysmen.org/ic2026)で開始されます。

1泊97米ドルの特別ホテル料金は数量限定のため、お早めにお申し込みください。お申し込み締め切りは、2026年7月31日です。



IC 2026 ウェブサイト





## 第75回国際大会

ミレニアムプラザダウンタウンホテル  
ドバイ、アラブ首長国連邦

### ワイズメンズクラブ国際協会

#### 2026年国際大会

2026年9月10～13日

#### 夢の祭典

世界で最も未来的な都市で、  
不可能な夢を見る

- 3泊4日間のイベントプログラム
- 大会期間中の食事代はすべて含まれています
- 会場ホテルのツインシェアルーム（朝食付き）は1泊97米ドルから
- フレキシブルなエクスカージョン - 複数の現地体験からお選びいただけます。

#### スーパーアーリーバード

2025年11月15日～  
2026年1月31日

475米ドル

#### アーリーバード

2026年2月1日～4月30日

495米ドル

#### 通常

2026年5月1日～7月31日

600米ドル



スーパーアーリーバード登録は2025  
年11月15日に開始されます。

詳細情報や登録についてはウェブサイトをご  
覧ください [www.ysmen.org/ic2026](http://www.ysmen.org/ic2026)

BF（ビルディング・フェロウシップ）は、YMIで最も古い国際プログラムであることをご存知ですか？今もなお盛んに行われており、友情を分かち合い、互いへの好奇心を満たし、異文化を探究する機会を創出しています。ホストと代表一の両方にとって、この経験は、大きなメリットとなります。

BF 訪問には、次のようなさまざまな形式があります。

- 地元または国際大会に出席するための大会助成金
- BF文化代表助成金（主にクラブ訪問用）
- iGo の就労研修プログラムに受け入れられた若者へのサポート

2023/24年度のYMIにおいて、BF文化代表を務めるという幸運に恵まれました。2024年5月、妻と3週間かけて韓国を訪れました。素晴らしい旅でした！素晴らしいメンバーの方々でした！この旅は、私自身や日常生活とは全く異なる文化を垣間見る機会を与えてくれただけでなく、韓国地域におけるYMI運動への理解を深める機会にもなりました。

私たちは、それぞれ異なる背景を持っていますが、YMIクラブのメンバーとして目指す目標は同じです。それは、人々の生活に変化をもたらし、YMCAの重要な活動を支援することです。その過程で、私たちは、共通の価値観と目標を持つがゆえに、違いよりも共通点の方が多いことに気づきます。

クラブメンバー全員がBFプログラムに積極的に参加すれば、世界は大きく変わり、他の文化や人々への理解と感謝に満ちたものになるでしょう。このことを、皆さんの活動の原動力にしてください。

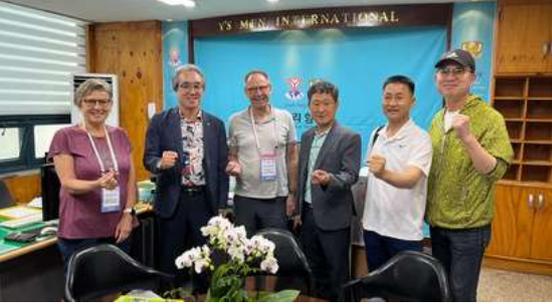
最終的に、BFプログラムの成功は、ホストの協力、クラブの献金によるプログラム資金、そしてやる気のある資格のある候補者という3つの主要な要素にかかっています。

BFは、関心のある代表の訪問を歓迎し、調整してくれるホストがいて初めて繁栄します。

提供できる旅行回数に制限はありませんが、BF助成金は、プログラムへのご献金額と、前年にBFブロンズ賞以上を獲得した優良クラブの会員であることなど、資格基準を満たす申請者の数によって決まります。申請に必要な条件に関する詳細は、[BFマニュアル](#)をご覧ください。

2025/26年度には、合計9件の旅行助成金が承認されました。

- 4件のBF大会助成金
- 5件のBF文化代表助成金



BFについてさらに詳しく知りたい方は、[こちらのBFビデオ](#)で概要をご覧ください。さらに、今年には各地域にBF推進事業主任が任命されました。BFについてさらに詳しく知りたい方は、担当の地域事業主任までお問い合わせください。連絡先は私からお伝えすることもできますし、地域会長までご連絡いただくことも可能です。

## BFのホストとなりましょう

他国からのクラブメンバーを招待しましょう。  
- 旅行はBFファンドによって支援されます。  
仲間意識を育み、意見を交換し、グローバルなYMIファミリーを強化しましょう。  
私たちの最も歴史ある国際プログラムを支援しましょう。

**訪問期間**

**2026年8月1日～2027年6月30日**



2025年12月1日  
ホスト申請締め切り

**今すぐ応募**

クラブとして、部として、区として、地域として

# BF代表 2025/26

## 大会助成金

完了  
進行中

名前

行き先

旅行期間

N. ラダクリシュナン  
コッティヤム、インド



ジョシ・G・V  
コティヤム、インド



チ・スンウォン  
ソウル漢陽、韓国



2025熊本アジア太平洋地域大会



2025熊本アジア太平洋地域大会



2025熊本アジア太平洋地域大会



2025年8月

2025年8月

2025年8月

サティア・ゴパル・パリハ  
カタック、インド



アメリカまたはアラブ首長国連邦



## 文化代表助成金

生川美樹  
川越、日本



スリランカ



2025年  
11月7日～15日

マーチン・ヴォシャン  
ズウォレ、オランダ



ブラジルとチリ



2025年  
11月8日～21日

シージャ・M・Kトリヴァンドラ  
ム、インド



ロシア



2026年5月

ケヒンデ・アデオエ  
ラゴス、ナイジェリア



韓国



2026年5月

ペ・ジョンエ  
プサンアルファ、韓国



スリランカ



2026年春

# インターンシップ4 グローバルアウトリーチ

リタ・ヘティアラッチ iGoおよびSTEP国際事業主任



インターンシップ4グローバルアウトリーチ (iGo) は、ワイズメンクラブ国際協会とYMCAの共同プログラムで、両団体の18~30歳の若者に短期インターンシップを提供しています。iGoは、参加者が国際的な経験を積み、新しいスキルを習得し、意義のある地域社会への奉仕活動に参加する、刺激的な機会を提供します。これは、ワイズメン子弟高校留学生交換プログラム (YEPP) に代わるプログラムとして設計されました。

長年にわたり、YEPPは、厳格な移民政策によりビザの承認が難しくなっていること、参加者に対する適切な保険提供と賠償責任 (ライアビリティ) の管理の煩雑さ、インターンの長期受け入れの難しさ、学校を通じた正式な交換プログラムの導入などにより、アマチュア交換事業が行える余地が狭まってきたことにより、困難ないくつかの重大な課題に直面してきました。

これらの障壁を克服し、よりアクセスしやすく、より影響力のある体験を創出するために、2021年にiGoが立ち上げられました。これは、YMIの青少年育成と国際協力への取り組みにおける新たな局面を示すものです。iGoインターンシップは、キャリアの初期段階にある若者にとって、他に類を見ない学習機会となるように設計されています。スキルと知識の移転にとどまらず、iGoでの経験は、グローバルコミュニティと国際的な連帯感を育みます。

このプログラムは、次の4つの主要なアクションを中心に構築されています。

**かかわる** - さまざまな文化や言語を体験し、視野を広げ、情報に精通した積極的な地球市民になるための視点を獲得することで、グローバルなかかわりを構築します。

**つながる** - 新しい人々と出会い、生涯の友情を育み、国際的な親睦を共有することで、専門的および社会的ネットワークを拡大し、個人およびキャリアの成長を促進します。

**築く** - 履歴書の価値を高める貴重な仕事と生活のスキルを養い、参加者を雇用主にとってより魅力的にし、世界に有意義に貢献します。

**エンパワー** - スキルと自信を強化し、自信を育み、知識を効果的に伝え、リーダーシップの可能性を育みます。

最初のiGoインターンシップは、2022年にエストニア出身のゲルト・ゲンタレンにチェンマイYMCAを通じて提供されました。他には、コソボを訪れた元国際ユース代表のドワイト・トムリンソンや、パルヌワイズメンズクラブが提供するプログラムに参加したラトビア出身のオスカー・ムセニエクスもiGoの機会を得ています。

今年は、ケニア出身のメアリー・シミュがiGoインターンとして選ばれ、ニューデリーに拠点を置くインドYMCA同盟が提供するプログラムに参加しています。

あなたの地域の若者に iGo の Web ページを訪問するよう勧めてください。 [iGo webpage](#) さらに多くの受入提供者を歓迎します。ホストすることに興味のある方は[こちら](#)から応募してください。

## iGoプログラムに参加し、喜んでます： インドYMCA同盟（ニューデリー）が提供した機会



ナイロビ・メトロYサービスクラブの直前クラブ会長でワイズユースのメアリー・シミュです。2023年に設立されたこのクラブのチャーター会長を務めました。女性のエンパワーメントと地域奉仕活動を強く支持しています。ワイズ運動に参加したのは、長年ワイズメンとして奉仕している、私の素晴らしいメンターでもあるピーター・マラバ牧師のおかげです。YMI運動での私の歩みには興味深いエピソードがありますが、今回はiGoプログラムで得られた素晴らしい機会についてお話しできることを嬉しく思います。

この機会について初めて知ったのは、YMIユース専用のFacebookグループでした。最初は、長年この運動に参加している人だけが対象だと思っていたので、応募をためらっていました。そこで、メンターのピーター・マラバに相談したところ、ぜひ挑戦してみるようにと励まされました。締め切りの前日に応募し、招待状を受け取った時は、大喜びでした。家の中で飛び跳ね、家族も一緒に祝ってくれたのを覚えています。

その後、渡航書類の準備を始め、YMIとホストYMCAの協力を得て、すべて入手することができました。パスポートの取得には多少の遅れがありましたが、手続き全体を通して丁寧なフォローアップとサポートをいただき、大変感謝しています。ケニア・ヒンドゥー評議会でもヨガのファシリテーターを務めていることもあり、ずっとインドに行きたいと思っていたので、緊張と興奮が入り混じった気持ちです。

新しい文化を学び、地域プロジェクト、特に若い女子のメンターとしてボランティア活動に参加することを楽しみにしています。この機会を決して無駄にせず、所属クラブだけでなく、ケニア部、そしてアフリカ地域全体を代表できることを強く願っています。

伝えたいことがたくさんあり、素晴らしい経験を楽しみにしています。この素晴らしい機会を与えてくださったワイズメンの皆さま、ありがとうございます。

# 未来への価値あるSTEP！

リタ・ヘティアラッチ iGO および STEP国際事業主任



ユース海外短期交流プログラム（STEP）は、若者に、3～11週間、他の国あるいは他の区のワイズメンの家族と過ごす機会を提供します。このプログラムは、より長期の青少年教育交換プログラム（YEPP）に参加できない、あるいは参加を希望しない若者に国際経験を提供するために1990年代に開発されました。

現在、STEPは、ワイズメン、ワイズメネットの18～25歳の子供や孫およびYMCAのユース会員のための国際交流を企画しています。

このプログラムは、参加者にさまざまな環境や文化を体験する機会を与えるだけでなく、STEPの所在地と自国を比較することで、自国に対する新たな洞察を得る機会も提供します。また、その視点をSTEPのホストファミリーと共有します。

STEPは、無限の可能性を秘めたプログラムです。学生たちにこの素晴らしい国際経験と自己成長の機会を知ってもらうため、クラブがSTEPの普及活動に積極的に取り組むことが重要です。STEPは、海外の学校に通うものではなく、学生、ホストファミリー、クラブ、そして地域社会にとって興味のある活動への参加に重点を置いています。例えば、クラブの募金活動、YMCAキャンプ、断食の時（タイム・オブ・ファスト：TOF）プロジェクトなどが挙げられます。

STEPの恩恵は、学生だけにとどまりません。ホストファミリー、地域社会、そしてYMI/YMCA運動全体がこのプログラムから恩恵を受けています。なぜなら、このプログラムは、YMIの究極の目的の一つである「世界的な親睦」を育むからです。若者にこの機会を提供することで、未来の世代がYMIに関わり続け、刺激を受け続けるよう促すことができます。

STEPは休暇ではありませんが、参加者は、学業の妨げにならないよう、学校や勉強の休みの期間と重なる時期を選択することがよくあります。効果的なコミュニケーションを図るうえで、ホストファミリーの言語が学生の言語と一致していることが理想的ですが、必ずしもそれが可能とは限りません。学校や家庭で学習している他の言語を習得したいと考えている学生もいて、その場合は、それに応じた配置することも可能です。

プログラムの成功は、クラブ、ホストファミリー、そして学生の協力にかかっています。ホストファミリーは、温かい家庭環境を提供し、クラブメンバーは、参加者がYMIとホスト国の文化について学ぶ機会を可能な限り多く提供します。国際兄弟クラブ（IBC）は、STEP交換を促進することができ、あるクラブが学生を派遣し、その兄弟クラブが学生を受け入れるといった形態が考えられます。

STEPの利点は、次のとおりです。

- 異なる文化、習慣、言語を体験する。
- 世界の兄弟愛と平和な国際親善の喜びを楽しむ。
- 世界中のYMIの活動について学ぶ。
- 自信、責任感、成熟度が増す。
- ホストクラブとコミュニティに国際的な視点をもたらす。

STEPへの申請および参加費は、無料です。ただし、往復航空券と小遣いは、学生本人、両親、または申請者の部または区などのスポンサーが負担する必要があります。STEPの申請は、オンラインで提出できます。区同士での参加は、費用の削減に役立ちます。資格のある若者は、今すぐ申請して、人生を変えるような国際体験に乗り出しましょう！

新しいiGoの  
チャンス!

チェンマイ  
タイ

2026年6月～8月

# アフリカ地域ニュース

ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース編集者

## 最後の務め

2025年9月25日、区理事のルーク・チシャ・ムワナカトウエは、キトウエYMCAで開催されたYMCAとYMIの共同事業である「アフリカのルネッサンスに向けた若者のエンパワーメント」に関するフォーラムに出席しました。



これがルークにとってYMIでの最後の任務となりました。3日後の2025年9月28日、アフリカ南東区は、ルーク理事が前夜、交通事故で亡くなったという悲報に迎えられました。区理事としての短い在任期間中、ルークは、地域内のほぼすべての部を訪問し、早すぎる死を迎える前には南アフリカ地方への旅行を計画していました。

## カカメガYサービスクラブが3人の少女に希望の道を照らす

2025年10月4日（土）の朝、カカメガサービスクラブがセント・テレサ・エレギ女子高等学校を訪れ、喜びに満ちたひとときを過ごしました。ブリジット・キヌス、シャリーン・インベンジ、アシュリー・アンゼモの3人の生徒たちにとって、人生を変えるような瞬間となりました。クラブのコミュニティ・イニシアチブ・ディレクターの主導と、アーノルド・マギナ会長の奉仕のビジョンのもと、179,319ケニアシリング（約1,000米ドル）が集まり、3年生の生徒たちの学費滞納を清算しました。

さらに、この基金は、4年生の支援も行い、彼女たちの教育が中断されることなく継続されることを保証しました。この活動は、若者のエンパワーメントと家族の希望回復というクラブのコミットメントを再確認するものです。

アーノルド・マギナクラブ会長が、マーシー・ルヴァイ副校長（左から3番目）の助けを借りて、母親（右から2番目）に付き添われた生徒のアシュリー・アンゼモに小切手を手渡している。



## 地域清掃

キトウエYサービスクラブは、エクイティバンク・ケニアおよびキトウエ郡政府と協力し、2025年10月10日のマジンギラ（環境）デーを記念して町の清掃活動を行いました。これは、同じ志を持つ他の団体と協力し、適切な廃棄物管理を通して生態系への汚染物質の流入を最小限に抑え、環境保全を目指す取り組みです。



町の清掃活動に参加するキトゥイYサービスクラブ、エクイティバンク・ケニア、キトゥイ郡政府のメンバー

## トレーニング！トレーニング！トレーニング！

アフリカのクラブは、地域奉仕活動への取り組みを継続する一方で、会員の能力開発のための研修も続けています。カカメガYサービスクラブは、バーチャルプラットフォームを通じて、部、区、そして地域を対象とした研修を毎週開催しており、参加者は最大80名に上ることもあります。これらの研修は、アフリカを次のレベルへと導く、知識と情報に通じ、能力を備えた会員の育成を目的としています。



10月4日、セントラルYMCAにて、ナイロビ・トリプルYクラブのY'sユース、会員、そして会員候補者を対象としたクラブ研修会を開催しました。

## アフリカが祝う！

アフリカは、ケニア部元部長のモリス・キムリが2024/2025年度エルマー・クローウ賞を受賞したことを祝福します。モリス元部長は、ケニア部全体での新たなクラブ設立、会員増強の推進、そして新会員と既存会員の両方に対する研修の指導において、多大な協力と献身的な貢献をしてきました。

彼は、現在、ケニア部のLTOD事業主任、アフリカ南東区の広報事業主任、そして2026年国際大会動員チームのメンバーを務めています。モリスは、国際憲法審査委員会にも貢献しており、YMIの成長と奉仕への揺るぎない献身を体現しています。

# アジア太平洋地域ニュース

利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者

## 日本



十勝ワイズメンズクラブは、地元産のじゃがいもを販売し、全国のワイズメンズクラブに卸売りすることで、各クラブのファンドレイジング活動に貢献する活動を行っています。

写真は、熊本の各ワイズメンズクラブのメンバーが十勝ワイズメンズクラブから届けられたジャガイモを荷降ろししている様子です。熊本ひがしと熊本にしワイズメンズクラブは、熊本県内の子ども食堂にジャガイモを寄付しました。



## 台湾



2025年10月18日、台湾中央部は、彰化老人ホーム（衛生福利局）と提携し、障がいのある高齢者の方々への共同サービスを提供しました。「高齢者を尊重し、つながり、喜びを分かち合う」をテーマにしたこのイベントには、116名以上の高齢者が参加しました。



# ヨーロッパ地域ニュース

ビルジット・ジェイコブセン ヨーロッパ地域ニュース編集者

ヨーロッパ地域評議会がアウルムに集結し、将来の協力と成長を計画



2025年9月の最終週末、デンマークのアウルムにあるYMCAを会場に、ヨーロッパ地域評議会が開催されました。この会合では、区理事と地域のリーダーが一堂に会し、主要な取り組みや将来計画について議論が行われました。主要な議題の一つは、2026年初頭にヨーロッパYMCAと共同で計画されている「チャレンジ・カンファレンス」で、両組織の連携強化を目的としています。ウルリック・ラウリドセン元国際会長が評議会メンバーの就任式に出席しました。議題には、日本での国際議会の報告と各区の最新情報が含まれていました。また、2026年にドバイで開催される国際大会、そして2027年にヴァイレで開催される地域・区大会の計画も開始されました。

さらに、会員たちは、ウェブサイトの改善案について議論し、地域の財政状況を確認しました。特にYMIの国際プログラムへの継続的な寄付を奨励することに重点が置かれました。週末は、ジェンス地域会長の自宅における親睦、教会での礼拝、そして会合の肯定的な評価で締めくくられました。



# デンマーク区プロジェクト2025/26：持続可能な開発のための長期ビジョン

2025/26年度デンマーク区プロジェクトは、レソト王国カチャズ・ネック県テベロンにおける持続可能な開発の促進に重点を置いています。この長期的な取り組みは、実践的な行動、教育、そして強力なパートナーシップを通じて地域社会のエンパワーメントを図り、現在と将来の世代の両方にとって永続的な価値を創造することを目指しています。生活環境の向上と地域開発の促進を目的とした持続可能なソリューションを開発することで、地域の主要な課題に取り組んでいます。

## 気候変動の課題とコミュニティのニーズ

レソトにおける大きな課題の一つは土壌浸食であり、気候変動によって悪化しています。この問題に対処するため、村議会は、果樹の植樹に加え、地元の作業場と学校の改修への支援を要請しました。

## プロジェクトの目標と期待される成果

このプロジェクトは、果樹栽培の訓練を通じて若者の失業を減らし、健康的な学校給食で公衆衛生を改善し、地元の食料生産を奨励し、土壌浸食防止の意識を高めることを目指しています。

地元の工房、果物そして最終的には果樹の販売からの収入を通じて、2～3年以内に自立することを目指しています。

## パートナーシップ

この取り組みは、南部アフリカレソト福音教会の協力を得て実施されています。同教会は、レソト国内の多くの教会、学校、病院、診療所を管轄しています。2024年10月に設立されたレソトワイズメンズクラブの会長は、「持続可能な村テベロン」のプロジェクトグループにも参加しています。

## プロジェクトの開始

デンマーク・レソト・ネットワークは、予算編成、会計、報告手続きなど、プロジェクトの詳細を最終決定するため、2025年2月にテベロンを訪問しました。2025年6月に5万デンマーククローネの前払いが行われ、7月にプロジェクトが開始されました。



# インド地域ニュース

ジョセフ・ヴァルギース インド地域ニュース編集者

## 中央トラヴァンコール区



### Gen Z イグナイターズユースキャンプが未来のリーダーを育成

10月3日から5日まで、パタナムティッタのチャラル・マウントで「Gen Z イグナイターズ」地域ユースキャンプが開催され、27名のユースが参加しました。インド地域会長のジョージ・ダニエルによって開会されたこのキャンプでは、JCIナショナルトレーナーのニジョイ・P・ジョースが指導教員を務め、区ユース代表メンターのアヌープ・クマールとアリーナ・アレックスがコーディネーターを務めました。修了式では、元理事のジェイコブ・ヴァルギースから修了証書が授与されました。

## 中東区

### 中東区がオルミチョナム 2025 を祝う

10月5日、アジュマーンのクラウンパレスホテルに300人を超えるYMI会員が集まり、文化、伝統、そして親睦を祝うオルミチョナムが開催されました。このイベントでは、チェンダメラム、オナサディヤの祝宴、そして区プロジェクト「ホームレスのための家」への寄付などが行われました。祭りの枠を超えた地域ケアの広がりが印象的でした。



### 国際会長誕生日祝賀会

中東区では、ドバイのシェリング・テッケカラの邸宅でエドワード・オン国際会長の誕生日も祝い、1シャナヴァスカーン直前国際会長や元国際会長、2026国際大会委員長のウルリック・ラウリドセンなど、著名なYMIリーダーたちが出席し、思い出に残る親睦の夜となりました。



## 中西インド区

### 反薬物啓発集会、ウヌカル

ウヌカルワイズメンズクラブは、カヴァランガド・パンチャーヤットおよびジャナマイトリ警察と協力し、地元の学校の生徒たちの反薬物啓発集会を開催しました。P・M・バイジュの呼びかけで始まったこの集会は、クラブのリーダーたちがコーディネートし、薬物乱用に対する強いメッセージを発信しました。



### オナム・バイブス 2025 - 第1部

第1部は、10月5日にムンダムヴェリホールでオナムを祝いました。アクティビティには、プッカラム、ティルヴァティラダンス、絵画コンクール、オナムの歌、綱引き、盛大なサディヤの祝宴などが含まれました。



## 南インド区

### サティヤマンガラム・SHEROESの地域社会への貢献

SHEROESは、PUMS コマラパラヤムの生徒84名を対象に無料歯科キャンプを開催し、ユニバーサルピース財団の老人ホームを訪問して30名の入居者に必需品を配布し、健康、ケア、地域活動への取り組みを反映させました。



### ディパバリのお祝い

マドラス部のYMIクラブは、アナンダ・イラムでディパバリを祝うために協力し、永続的な思いやりと奉仕の精神の証として、HIVに感染した子供たちに喜びと必需品の1日を提供しました。



## 南中央インド区

### ディパバリのお祝い

南部のヴィルドゥナガル・ワイズメンズクラブは、HIVに感染した両親のもとで生まれた45人の養子のために、楽しいディパバリのお祝いを後援し、新しい服、クラッカー、お菓子、ナツメヤシ、ナッツを配布し、一緒にお祝いの昼食を楽しみました。



## 南西インド区

### 若者の志2025

若者のエンパワーメントと学習に理想的な環境を提供する「Youth Aspire 2025」研修プログラムが10月17～18日にポンムディで開催され、区理事のトーマス・K・ジョージによって開会され、直前国際会長のシャナヴァスカーンによって閉会されました。



## 西インド区



トリシュール駅にて、ラメシュ・チェニタラ出席のもと、トリシュール・ワイズメンズクラブ創立100周年記念会から浄水器が寄贈されました。



家庭菜園プロジェクトの一環として、会員および一般の人々に配布された野菜の苗木



ORUMA 宿泊型青少年キャンプがワヤナードで開催され、50人の青少年が参加し、10人の専門講師が参加しました。



クナムクラム・ワイズメンズクラブが世界クリーンアップデートを守りました。2人の元理事と元クラブ書記が出席しました。



ダルマサラでワイズリングズクラブ会員の子供たちが国際ガールズデーを祝いました。

# 韓国地域ニュース

チョン・ギョンジュ 韓国地域ニュース編集者

## YMIドクターが13回目の医療ミッションを成功裏に完了

2025年10月4日から6日にかけて、第13回YMIフィリピン医療ミッション「サン・ジョセフ・スマイルプロジェクト」が、リサール州アンティポロ市サン・ホセ村で成功裏に実施されました。ワイズメンズクラブ国際協会と韓国地域が主催し、「タイム・オブ・ファスト」プログラムの支援を受けたこのミッションは、サンシャイン・ミッションセンターと連携して実施されました。キム・ヒョング会長の指揮の下、医師、看護師、事務職員、現地通訳、現場ヘルパーを含む11名のボランティアチームが、医療サービスが行き届いていない住民に寄り添った医療を提供しました。診療は、サンシャイン教会と近隣の山村で行われ、地域住民と遠隔地住民の両方が医療を受けられるよう配慮されました。

3日間で、ミッションは355人の外来患者を診察し、4人の患者に8件の外科手術を実施し、約300人の小児に駆虫薬を投与しました。小児にはビタミン剤と予防ケアが提供され、成人には筋骨格系の痛み、呼吸器系の問題、アレルギーなどの治療が行われました。多くの患者が初めて医師の診察を受け、医療による安らぎと温かい思いやりの両方を体験しました。ミッションの実現にご支援いただいたサンシャイン・ミッションセンター、韓国のワイズメン、そしてYMIのTOFプログラムに心より感謝申し上げます。



## 韓国済州区の参加型ビーチクリーンアップ

済州特別自治道は、ユネスコ生物圏保護区、世界自然遺産、世界ジオパークに指定されており、豊かな環境・生態系資源を有し、その保全は不可欠です。キム・ボンヒ区理事率いる済州区は、「みんなで美しい済州の海を育てよう」というスローガンを掲げ、済州で初めてボランティア団体として海岸を保護し、毎年恒例の清掃活動を実施しています。



"아름다운 제주바다, 우리모두 함께 가꾸어요"

キム理事にとって、済州島の沿岸環境保護は地元YMIクラブたちの中心的な責務です。2023年10月から、済州市旧左邑の金寧・東福海岸1.6kmにわたって、ビーチプロッキング（ジョギングしながらゴミを拾う）イベントが開催されています。約300人のクラブ会員が参加し、運動と環境保護の両方を促進しています。

10月25日、16のクラブが海岸でのプラギングイベントに参加し、済州島の海岸線の活力回復に貢献しました。この取り組みは、YMIの戦略2032の主要分野である持続可能な環境保全活動に合致しています。全国農業協同組合連合会済州本部、済州YMCA、済州信用組合などのパートナー団体の支援を受けたこのプロジェクトは、ワイズメンクラブ運動の認知度を高め、ボランティアによる協働活動の成果を示すものです。



## 韓国西区が国際親善を育み、特別研修を実施

韓国西区（チュ・チャンホアン理事）は、デジョンで学ぶ東南アジアの学生たちのために昼食会を主催しました。留学生と区内クラブのメンバーと一緒に食事をし、会話を楽しみました。

デジョン部は、10月18日、デジョン墓地第2総合墓地で研修会を開催しました。「より素晴らしいデジョン部」というスローガンと「愛、飛躍、そしてエクステンション」というテーマの下開催し、愛国者記念財団（クォン・ヒュンジョ会長）および大韓詩朗誦作家協会（イ・ジョンユン会長）の支援を受け、より意義深い研修会となりました。



ユ・ヨンレ部長は、開会の辞で、「今年のデジョン部研修会は、祖国を守るために尊い命を落とした軍人たちが眠る国立墓地で開催されるという点で、特に感慨深いものがありました」と述べました。今回の研修会の特筆すべき点は、儒城障がい害者自立生活センターに約2,300米ドル相当の食肉が寄付されたことです。



## 韓国中央区理事が模範を示す

10月15日、韓国中央区のホン・ジョンデ理事は、春川北部高齢者福祉センターを訪れ、約750米ドルを寄付しました。この寄付は、センターが選定した50人の高齢者に食事を提供するために使用されます。中央区のワイズメンは、地域社会への共通のコミットメントを通じて、思いやりを広め、より包摂的な世界を育んでいます。



# 米国地域ニュース

メラニー・カアイフェ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者

## 毎年恒例のクラブの日帰り旅行で親睦を深める

ウエストチェスター・ニューヨーククラブは毎年、会員同士が交流を深める特別な日を設定しています。公園でのピクニックや一泊キャンプなど、様々な形で交流を深めることができます。今年はさらにレベルアップし、丸一日かけてアドベンチャーを企画し、思い出に残る素晴らしい遠出となりました。

9月25日の朝、配偶者を含む40名のメンバーがチャーターバスに乗り込み、風光明媚なジャージーショアとアトランティックシティに向けて出発しました。途中、ニュージャージー州にある世界で2番目に大きいヒンドゥー教寺院に立ち寄り、意義深いひとときを過ごしました。

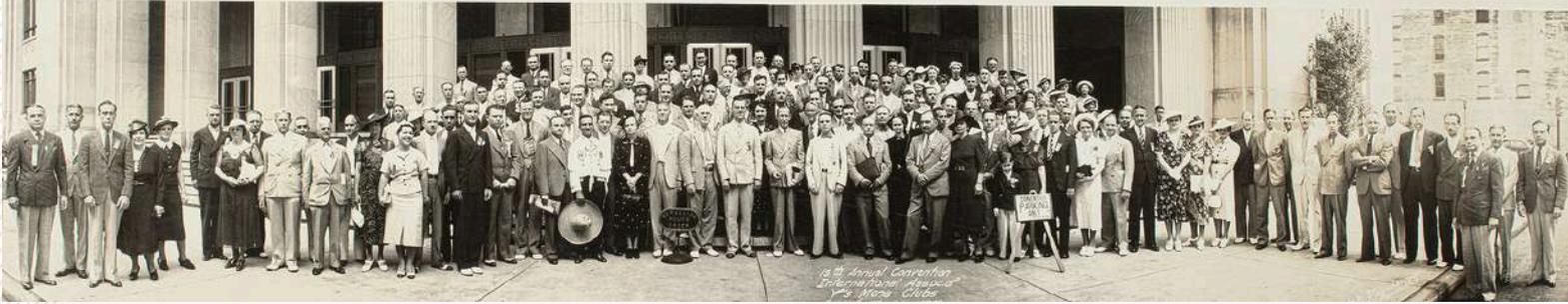
この日は、リラックスとエンターテイメントが完璧に融合した一日でした。メンバーは有名なアトランティックシティ・ボードウォークをのんびり散歩したり、ビーチで日光浴をしたり、音楽を聴いたり、中にはカジノで運試しをしたりする人もいました。そしてもちろん、美味しい食事なしでは旅は完結しません。美味しい家庭料理が、この日に温かく、そして個人的な感動を添えてくれました。

しかし、観光やアクティビティをはるかに超えて、この旅の核心はシンプルでした。それは、仲間意識です。絆を深め、お互いをより深く知り、クラブを結びつける絆を強めることが目標でした。笑顔、語り合った物語、そして楽しいひとときから判断すると、その目標は、確かに達成されました。一日の終わりには、全員が「素晴らしい経験だった」と口を揃えました。その感動は、来年、新たな目的地で同様の旅を企画するほどでした。



## グランドラピッツYサービスクラブが100周年を祝う

ニール・トプリフ



1937年8月22日から26日にグランドラピッツで開催された第15ワイズメンズ国際大会の集合写真。100周年記念晩餐会で展示されました。

グランドラピッツYサービスクラブは、2025年10月6日にフレデリック・マイヤー・ガーデンで100周年を祝い、リーダーシップの功績を称える晩餐会を開催し、クラブのYMCAキャンプ基金のために10万ドル以上が集まったことを発表しました。「奉仕の世紀 - 未来への刺激」というテーマの下、200名を超える会員とゲストが参加しました。国際書記長のジョース・ヴァルギースと国際会長のエドワード・オンからビデオと手紙で挨拶を受けました。米国地域会長のジョセフ・カンジャマラは、クラブ会長のジェイソン・ハンナに、クラブの1世紀にわたる卓越性を称える盾を贈呈し、「グランドラピッツYサービスクラブは、米国地域で最も優れたクラブの1つです」と述べました。5名の会員が名誉会員として表彰され、6名がレガシー会員栄誉賞を受賞しました11名の受賞者は、クラブとYMI運動への350年以上にわたる貢献を象徴しています。前クラブ会長のジョン・ヘスは、「私たちは、クラブの魂を体現する方々を表彰しました。彼らの物語は、会員から会員へと受け継がれてきた伝統を改めて思い起こさせてくれます」と述べました。

夕べの司会は、新たに名誉会員に任命されたヘンリー・カポーニャでした。YMCAのCEOらが特別講演を行い、西ミシガン全域の青少年支援への会員の長年にわたる献身を称えました。歴史的なアーカイブが展示され、1937年の国際大会のパノラマ写真には、創設者ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事とヘンリー・グライムズ国際書記長が写っています。100周年記念ビデオは[こちら](#)をご覧ください。



ジェイソン・ハンナ（左）が、米国地域会長 ジョセフ・カンジャマラ（右）と、中部アメリカ区のチャーリー・レッドモンド、そしてその妻でYMIのヒストリアンであるデビー・レッドモンドから「優秀賞」を授与されています。



クラブ前会長であり、100周年記念キャンペーンの委員長であるロバート・C・(ボブ)ウィリアムズは、ポールウィリアムアレキサンダーレガシー基金と地元のYMCAキャンプ基金への慈善支援により、YSC インターナショナルゴールドスター賞を受賞しました。

## TOF資金によるタイニーホームがニューヨーク・タイムズ紙で紹介され、ラコタ族のコミュニティに希望をもたらす



信頼性と170年以上にわたる詳細な報道の歴史で知られる出版物、ニューヨーク・タイムズは、最近、サウスダコタ州シャイアン川保留地における革新的なタイニーホーム・プロジェクトを特集しました。これは、2022年からTOFの資金援助を受けている変革的な取り組みです。セブン・カウンシル・ファイアーズYMCAと全国の卒業生ボランティアが先頭に立つこのプロジェクトは、ラコタ族の長年の住宅不足の解消に役立ち、コミュニティの意見を取り入れて設計された安全でエネルギー効率の高い住宅を提供しています。

2025年5月のTOFレポートによると、タイニーホーム・プロジェクトは、目覚ましい進展を遂げています。2年間の計画と3年間の建設を経て、モーニングスター・コミュニティは、現在4軒のタイニーホームで構成されています。各住宅は、日の出の方向の東を向き、ラコタ族の生命の循環を反映した円形の窓を取り入れるなど、文化的な配慮を込めた設計となっています。ボランティア、地元の請負業者、そしてYMCAのスタッフが協力して、現場作業、骨組み、外壁の建設を完了しました。2025年の計画には、内装仕上げ、キッチンとバスルームの設置、造園、そしてパビリオンやメディシンホールを含む共用エリアの準備が含まれていました。

YMCAはまた、ガイドライン、申請書類、そして100 Horses Women's Societyを含むパートナーシップ、移行住宅プログラムを開発しました。これにより、家族を地域のリソースと結びつけ、恒久的な住宅への道のりを支援します。驚くべきことに、YMCA卒業生は、2024年に募金活動で予想を上回る258,335.74米ドルを集め、目標額100,000米ドルに対して、プロジェクトへの寄付総額は約979,000米ドルに達しました。これにより、これらの住宅は家具完備となり、居住者がすぐに利用できる状態となりました。

モーニングスター・コミュニティの完成。卒業生、YMCA職員、そして地域住民が集まり、住まいの提供だけでなく、希望、安定、そして地域社会の協力の力を象徴する住宅の献呈式が行われました。この式典では、ラコタ族の文化と伝統を尊重しながら、何世代にもわたる貧困の連鎖を断ち切る上で、これらの住宅が果たした大きな影響力が強調されました。

このプロジェクトは、2025年9月に重要な節目を迎え、TOFの継続的な支援を称えるテープカット式典が行われました。TOFの支援は、このビジョンの実現に大きく貢献し、タイニーホーム・プロジェクトが建築革新、ボランティア活動、そして文化に根ざしたデザインを融合させ、最も支援を必要とする人々にサービスを提供することを可能にしました。コミュニティが最初の居住者を迎え入れ始める中、モーニングスター・コミュニティは、持続可能で包摂的な住宅事業のモデルとして位置づけられています。

リボンカットセレモニーのハイライトは、[こちら](#)をご覧ください。

## より強いコミュニティのための種を蒔く

ローリー・ワード TOF プロジェクトコーディネーター兼  
ローワン・カバラス YMCA 助成金申請者



TOF 2025/26 プロジェクトである「Share the Harvest Community Farm」は、ノースカロライナ州カバラス郡（米国）の子どもたちと家族の飢餓を軽減するための草の根運動として2015年に始まりました。ローワン・カバラスYMCAのウェスト・カバラスYMCA支部のスタッフとボランティアが農場の管理と運営を行っています。

TOFの支援により、農場は11回目の栽培シーズンに向けて農産物、種子、植物を保管するための冷蔵庫を購入し、農場管理者の賃金を支払い、地域社会の食糧不安のニーズに引き続き応えることができますようになります。

10シーズンにわたる栽培を経て、この農場は困窮家庭に新鮮な農産物を提供するだけにとどまらず、地元の企業や団体、学校、そしてカバラス郡の住民をつなぐ場として機能してきました。彼らは、共に畑で汗を流し、YMCAとそのパートナー団体が共通の目標達成に向けて尽力しています。あらゆる年齢層のボランティアが農場で充実した時間を過ごし、より強固なネットワーク、新たなスキルの習得、食料不安への理解の深化、そして真の変化をもたらしたという満足感を得て、この農場を後にします。

## TOF（断食の時） 変化をもたらすための別の方法

一部の奉仕団体は、注目度の高い世界規模のキャンペーンのみに取り組んでいますが、YMIのタイム・オブ・ファストプログラムは、完全に地域レベルで運営される小規模のコミュニティプロジェクトと、より広範囲に及ぶより複雑な多国間の取り組みの両方をサポートしています。

TOF 資金は、私たちの主要かつ創設パートナーであるYMCA、YMCAの関連団体、そして私たちのクラブが、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の少なくとも1つに取り組むプロジェクトのために確保されています。

今すぐ応募

### 応募資格

- 投票権を持つグッドスタンディングクラブ
- ワイズユースとワイズメネットワーク
- 世界中のYMCAおよび認定YMCA関連団体

### プロジェクト基準

- 十分なサービスを受けていない個人やコミュニティに利益をもたらす。
- 自助と持続可能性を促進する。
- 少なくとも1つの国連の持続可能な開発目標（SDG）を支持する

### YMCA / YMCA関連団体向け

- 申請は、地元のYMIクラブ、部、区、または地域によって承認される必要があります。
- YMIクラブが関与する場合は、役割と責任を概説したMOUを申請書に添付する必要があります。



応募締切 11月15日



# 国連デー

国連プロジェクト委員会のメンバーであるロイズ・マラセリーが選定し、要約した、11月の主要な国連記念日



ロイズ・マラセリー  
国連プロジェクト委員会  
メンバー

## 平和と発展のための世界科学の日

社会における科学の重要性を強調し、科学の問題に一般大衆を関与させ、平和と持続可能な開発に役立つ科学を推進することを目的としています。

11月10日

## 世界糖尿病デー

糖尿病とその管理に関する理解を促進し、予防とケアに関する国の政策を奨励し、人類の健康のための共同の取り組みを通じて治療と教育へのアクセスをサポートする、毎年恒例の啓発キャンペーンです。

11月14日

## 国際寛容の日

不寛容の危険性について国民の意識を高め、世界の文化的多様性に対する相互理解、受容、認識を促進することを目指しています。

11月16日

## 世界交通事故犠牲者追悼の日

毎年11月の第3日曜日に、交通事故で亡くなった人や負傷した人を追悼し、交通安全の向上を訴え、交通事故による莫大な社会的、経済的損失に注意を喚起し、予防措置を促進する目的で制定されています。

11月16日

## 世界子どもの日

1959年の児童の権利宣言と1989年の児童の権利条約の採択を記念し、国際的な連携を促進し、児童の権利に関する世界的な意識を高め、児童の福祉の向上を目指しています。

11月20日

## 女性に対する暴力撤廃国際デー

世界中で女性や女兒が直面している広範かつ根深い暴力に対する意識を高め、そのような暴力の社会的、経済的、健康上の影響を強調し、虐待を防止し、被害者を保護し、ジェンダー平等と人権を促進するための集団行動を呼びかけています。

11月25日

## 化学戦争のすべての犠牲者を追悼する日

被害を受けた人々に敬意を表し、化学兵器を廃絶するという約束を再確認し、化学戦争による壊滅的な人的被害を省み、平和と安全を促進する厳粛な機会としています。

11月30日

# 人の子についてのたとえ話

ヴィリー・モルガード キリスト教強調国際事業主任

人の子が王となるたとえ話（マタイによる福音書 25章31節-45節）は、世の終わりに何が起こるかを描写したものではありません。しかし、いくつかの点で、このたとえ話は、特別な意味を持っています。キリスト教では、私たちの救いは善行によって決まるのではなく、恵みによって救われるとされています。これは、イエスの時代には新しい考え方であり、当時の人々にとって理解しにくいものでした。

したがって、このたとえ話を福音書に含めたのがユダヤ人であるマタイであり、彼が「救いは神の恩寵によるものであり、それは新しい考え方である」と言っているかのようであったことは、おそらく偶然ではないでしょう。

十戒やユダヤ教の律法学者が付け加えた他のすべての規則を参照するのではなく、道徳的義務の観点から戒律についていつものように考えたいのであれば、キリスト教徒の判断は、子どもでも実行できる6つの小さな愛の行為によって決まることを考えてみましょう。

1. 私はお腹が空いていたので、あなたは私に食べ物をくれました。
2. 私は喉が渴いていたので、あなたは私に飲み物をくれました。
3. 私は見知らぬ人でしたので、あなたは私の面倒をみてくれました。
4. 私は裸でしたので、あなたは私に着る物をくれました。
5. 私は病気でいたので、あなたは私を気にかけてくれました。
6. 私は囚人でしたので、あなたは私を訪ねてくれました。

これら6つの愛の行いは、どれも長年の教育や深い政治的あるいは神学的洞察を必要としません。「理解できなかった、あるいは助けるだけの理解がなかった」と主張して、これらの状況において何もしないことを正当化することは不可能です。キリスト教の愛の行いは単純で、むしろ平凡です。実際、それらは、要求が厳しくも不可能でもありません。小さくて単純なものです。ですから、誰でも、しばしば本能的でなくとも、自覚がなくとも行うことのできる6つの小さな行いがあるのは、大きな恵みと言えるでしょう。

行動を起こさない人々は、しばしば、「主よ、一体いつ私たちがあなたを見たというのですか？」と自問して言い訳をします。飢え、病気、あるいは困窮している人々の中に神の存在を認めないのです。彼らは、もしそれが真の神だと知っていたら、違った行動をしていたはずだと主張します。しかし、そう言うことで、彼らは、他の人間をほとんど軽視し、行動を起こす意志は、靈的に、あるいは物質的に、自分に利益があるかどうかという計算だけに基づいていることを明らかにしています。こうした理屈は、彼らにとって何の利益にもなりません。

困っている人々の中にイエスを見出し、仕えるというこの原則は、単なる理論ではありません。歴史を通して多くの人々によって実践されてきました。例えば、371年に司教となったトゥールのマルティヌスが挙げられます。

ある冬の日、まだ若い兵士だったマルティネスは、町の門で物乞いに出会いました。男は、寒さで顔が青ざめ、施しを乞いましたが、マルティネスにはお金がありませんでした。男の苦しみを見て、マルティネスは、持っていたもの、つまりよれよれのすり切れた上着をあげることにしました。彼は、それを二つに切り、半分を物乞いに与えました。その夜、マルティネスは、夢を見ました。天を仰ぐと、イエスが天使たちに囲まれ、ローマ兵の上着の半分を着ているのが見えました。天使たちがその理由を尋ねると、イエスは「これは、私のしもべマルティネスからもらったのです」と答えました。

同様に、6つの小さな愛のたとえ話は、アッシジの聖フランチェスコをはじめ、数え切れないほどの人々にインスピレーションを与えてきました。彼は、裕福で上流階級の家庭に生まれました。しかし、彼は、幸せではありませんでした。人生は、あるべき姿ではありませんでした。ある日、馬に乗っていたフランチェスコは、苦しみと恐怖に苛まれたハンセン病患者に出会いました。最初は、恐怖を感じましたが、何かが彼を動かし、その患者を強く抱きしめました。その瞬間、ハンセン病患者の顔は、イエスの顔へと変化したように見えました。

これらの物語は、神への愛は、他者への愛と切り離せないものであり、特に困っている人々への真の奉仕は、神との直接の出会いであるということを私たちに思い出させます。

## 編集長から

YMI ワールド に関するご意見やアイデアを共有するには、編集長にご連絡ください。

12月は、キリスト教強調と国際兄弟クラブ(IBC)の強調月間です。

インパクトのあるストーリーを投稿するには、以下をクリックしてください

締め切り：2025年11月15日

[編集長へ](#)